

# 感応公丁未震災後 封内巡視之図

弘化4年3月24日の善光寺地震（北緯36.7度、東経138.2度、M=7.4）では、山崩4万か所余といわれ、特に現長野市の西方の山地が多かった。

松代町の真田宝物館に「感応公丁未震災後 封内巡視之図」（以下「絵図」という）計67枚が保存されている。これは松代藩の御用絵師青木雪卿（1804-1901）の画いたもので、67枚の絵のうち3枚に、嘉永四年辛亥夏四月、嘉永三年庚戌夏五月青木重謹写という文字が見えるので、地震後3～4年たってから藩主が被害地の視察に出かけたときに、お伴をした青木雪卿が画いたものと思われる。

巡視の道順は絵図を追ってみるとわかる。3ルートと考えられる。第一は、松代から西へ稲荷山を通って大岡村に入り、山を越えて犀川沿いに信州新町に出るコース。第二は、裾花川沿いの現長野市の北西方向の地域。第三のルートは、小市から土尻川沿いに七二会から中條に入り、東進して虚空蔵山に至るものと推定される。

絵図一枚一枚に、どこからどの方向を望んだ図ということが記してある。絵図は正確な記録画である。67枚の写生点は60か所であり、そのうち54地点については写生点を同定することができた。その地点に立ってみると、絵図と現状では山の形、風景の細かい点まで一致して、いかにこの絵図が正確なものであるかがわかる。また、絵図からわかるように、山崩地点は樹木がなく赤茶けた色になっているので、山崩地点を現状と比べることができる。そのなかには崩落箇所が、そのまま現存

していることも多い。

67枚の絵図のうち2枚を例示する。表29番となづけたものは、図中に「於山田中下組天王社地望同上組震災山崩跡之図」と記されている。この写生点に立ってみると絵図に画かれている範囲は北30°西～西15°南の範囲である。写生点は現在の小田切小学校の北側と思われる。絵図の右上方、一段低い稜線の下に見える崩落箇所は、現在では樹木が茂っている。

2枚目は裏32番で、図中に「於茂管村鎮護峯眺東南之図 嘉永四辛亥夏四月 青木重謹写④」と記されている。写生点は長野市茂管内八幡山と考えられ、鎮護峯の山頂からやや南に下った所らしい。写生範囲は東20°南～南20°西の範囲内で、現在の長野市が一望できる所である。絵図の右方に見える山裾に流れているのは裾花川である。右の山は現在の旭山で、大きな山崩れがあったことがわかる。現在の長野県庁の対岸から少し上流に当たる所である。中央下方の緑が、細長く上左の方向に延びている所は善光寺の門前町であろう。現在では裾花川畔まで市街地になっているが、当時の善光寺の町の様子がよくわかる。

絵図と現状を比べてみると、崩落が現在までに当時より拡大している所は少なかった。また、崩落跡が、山地の急斜面から可住地の後斜面に移行する付近では整地され、宅地や畑になっている。そういう所に現在の観光道路であるパードラインが開通されている。

東京大学名誉教授／宇佐美龍夫



下中田山於  
 皇地社天純  
 山次震經上同  
 園之跡南



嘉祿四年庚辰夏四月

青木重權寫



北成窪村  
鎮嶺峯眺  
左東南向

感応公丁未震災後 封内巡視之図／真田宝物館蔵